



## 桃太郎（41）

桃太郎はたくさんのお宝をのこらずに積んで、三にんの家来といっしょに、また船に乗りました。帰りは行きよりもまた一そう船の走るのが速くって、間もなく日本の国に着きました。

船が<sup>おか</sup>陸に着きますと、お宝をいっぱい積んだ車を、犬が先に立って引き出しました。きじが綱を引いて、猿があとを押しました。



## 桃太郎（42）

---

「えんやらさ、えんやらさ。」

三にんは重そうに、かけ声をかけかけ進んでいきました。

うちではおじいさんと、おばあさんが、かわるがわる、

「もう桃太郎が帰りそうなものだが。」

と言い言い、首をのばして待っていました。そこへ桃太郎が三にんのりっぱな家来に、ぶんどりの

---



## 桃太郎（43）

---

宝物を引かせて、さもとくいらしい様子をして帰って来ましたので、おじいさんもおばあさんも、目も鼻もなくして喜びました。

「えらいぞ、えらいぞ、それこそ  
にっぽんいち  
日本一にだ。」

とおじいさんは言いました。

「まあ、まあ、けががなくなつて、何よりさ。」

とおばあさんは言いました。

---



## 桃太郎（44）

桃太郎は、その時犬いぬと猿ときじの方を向いてこう言いました。「どうだ。鬼せいはつはおもしろかったなあ。」

犬はワン、ワンとうれしそうにほえながら、前足で立ちました。

猿はキャツ、キャツと笑いながら、白い歯をむき出しました。

きじはケン、ケンと鳴きながら、くるくると宙返りをしました。



## 桃太郎（45）

---

空は青々と晴れ上がって、お庭には桜の花が咲き乱れていました。

おしまい

---

